

第1回仙台都市圏総合都市交通協議会

【資料2】

第6回仙台都市圏パーソントリップ調査について

令和8年7月22日

1. パーソントリップ調査とは
2. これまでの仙台都市圏パーソントリップ調査について
3. 仙台都市圏の現状と課題及び第6回調査の目的
4. 第6回仙台都市圏パーソントリップ調査について
5. 令和8年度の検討スケジュール（案）
6. 構成員（関係機関）への依頼事項

1. パーソントリップ調査とは
2. これまでの仙台都市圏パーソントリップ調査について
3. 仙台都市圏の現状と課題及び第6回調査の目的
4. 第6回仙台都市圏パーソントリップ調査について
5. 令和8年度の検討スケジュール（案）
6. 構成員（関係機関）への依頼事項

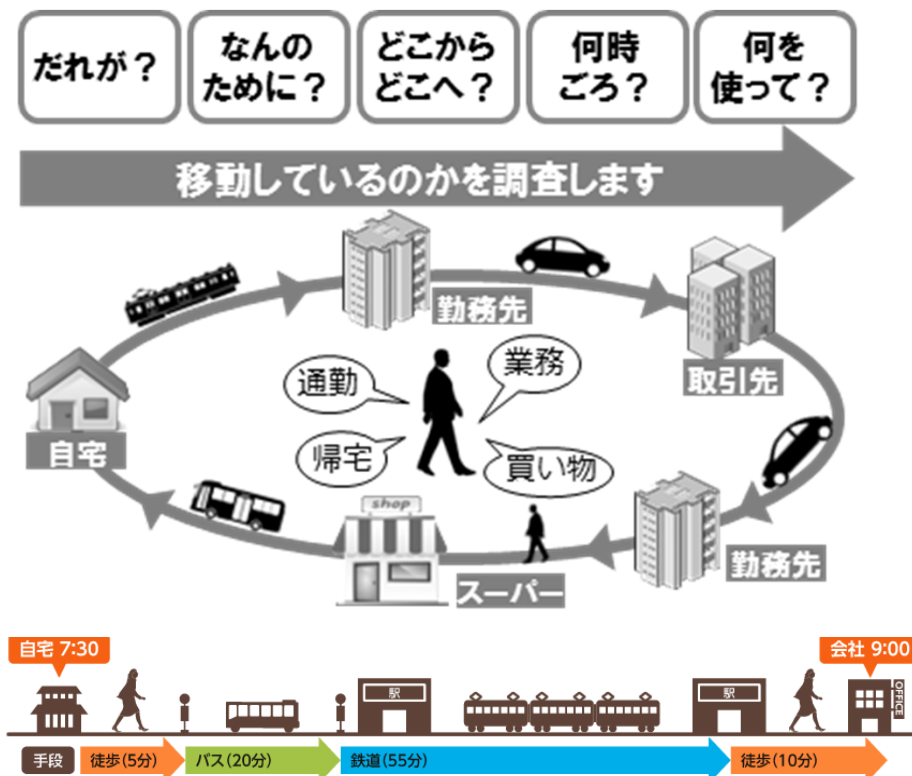
パーソントリップ調査とは

パーソントリップ調査（PT調査）とは

- PT調査とは『都市における人の移動実態を調査し、この実態データに基づき定量的な分析や評価を行い、交通計画や施策を提案する』、都市交通計画に係る一連の取り組み
- 人の移動実態を具体的に把握する調査が「トリップ調査」

トリップ調査とは

- どのような人が、いつ、どのような目的で、どこからどこへ、どのような交通手段で移動しているのかを調べる調査

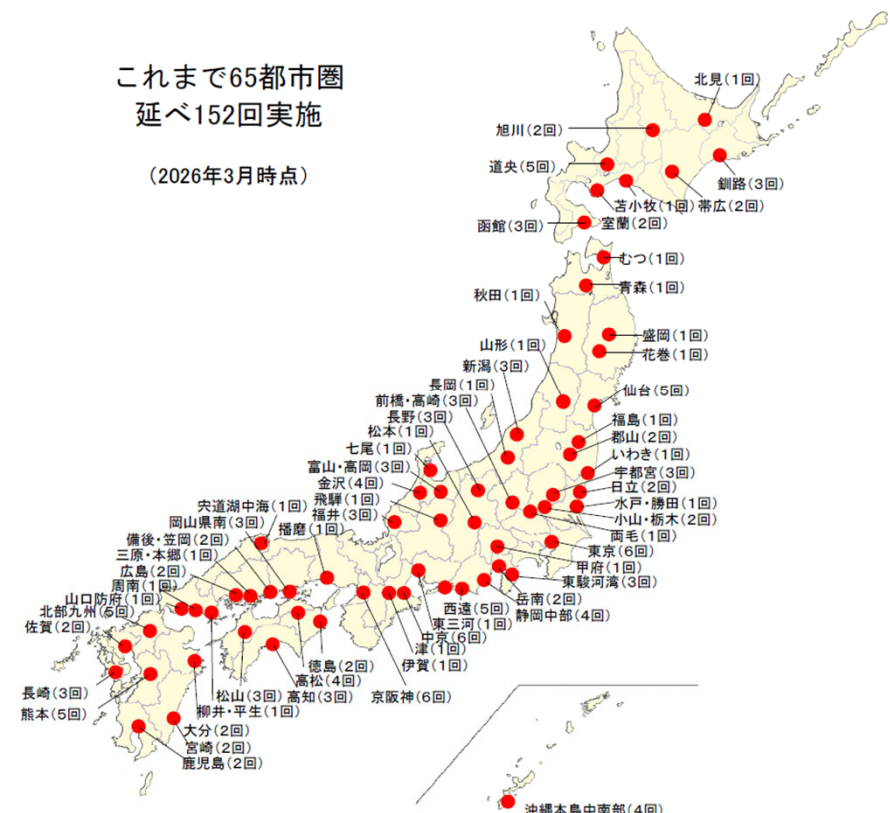


全国における取組

- 法定調査ではないものの、全国各地の都市圏で実施されている

◎パーソントリップ調査の実施状況

R8.3時点



トリップ調査項目の例（ある1日の移動）

基本となる調査項目（ある1日の移動）

世帯属性、個人属性

- ・ 現住所
- ・ 世帯構成員の年齢、続柄、運転免許保有状況
- ・ 世帯で保有する自動車等の保有／利用状況
- ・ 世帯構成員の就学、就業状況（職業、勤務先など）

個人ごとの1日の移動状況

- ・ 出発地の住所、施設
- ・ 出発時刻
- ・ 到着地の住所、施設
- ・ 到着時刻
- ・ 移動目的（通勤・通学、業務、買物、帰宅など）
- ・ 移動手段（自動車、鉄道、バス、自転車、徒歩など）
※公共交通利用者には利用した駅やバス名を、
自動車利用者には同乗者や駐車場所などを調査

【（参考）第5回仙台都市圏パーソントリップ調査の調査票】

平成29年度 仙台都市圏パーソントリップ調査 世帯票

記入についてのお願い

世帯の代表者（世帯主）の方が回答してください。

問1 あなたの世帯の現住所をお答えください。

問2 あなたの世帯の家族員（5歳未満の方を含む）についてお答えください。

問3 現在のお住まいについてお答えください。

問4 現在の住居に転居される前の住まいについてお答えください。

問5 世帯主の方が5年前に同居されていた方についてお答えください。

問6 あなたの世帯で所有している自動車や自転車などの台数についてお答えください。

平成29年度 仙台都市圏パーソントリップ調査 個人票 平日

記入についてのお願い

世帯票を回答した後に記入してください。

あなたの移動は 月 日 (曜日)

あなたの移動は 午前 午後

問1 1日のはじめにいたる場所

問2 1番目に行った場所は

問3 2番目に行った場所は

問4 3番目に行った場所は

問5 4番目に行った場所は

問6 5番目に行った場所は

問7 6番目に行った場所は

問8 出発時刻と到着時刻

問9 移動手段

問10 移動目的

問11 移動手段

問12 移動手段

問13 移動手段

問14 移動手段

問15 移動手段

問16 移動手段

問17 移動手段

問18 移動手段

問19 移動手段

問20 移動手段

問21 移動手段

問22 移動手段

問23 移動手段

問24 移動手段

問25 移動手段

問26 移動手段

問27 移動手段

問28 移動手段

問29 移動手段

問30 移動手段

問31 移動手段

問32 移動手段

問33 移動手段

問34 移動手段

問35 移動手段

問36 移動手段

問37 移動手段

問38 移動手段

問39 移動手段

問40 移動手段

問41 移動手段

問42 移動手段

問43 移動手段

問44 移動手段

問45 移動手段

問46 移動手段

問47 移動手段

問48 移動手段

問49 移動手段

問50 移動手段

問51 移動手段

問52 移動手段

問53 移動手段

問54 移動手段

問55 移動手段

問56 移動手段

問57 移動手段

問58 移動手段

問59 移動手段

問60 移動手段

問61 移動手段

問62 移動手段

問63 移動手段

問64 移動手段

問65 移動手段

問66 移動手段

問67 移動手段

問68 移動手段

問69 移動手段

問70 移動手段

問71 移動手段

問72 移動手段

問73 移動手段

問74 移動手段

問75 移動手段

問76 移動手段

問77 移動手段

問78 移動手段

問79 移動手段

問80 移動手段

問81 移動手段

問82 移動手段

問83 移動手段

問84 移動手段

問85 移動手段

問86 移動手段

問87 移動手段

問88 移動手段

問89 移動手段

問90 移動手段

問91 移動手段

問92 移動手段

問93 移動手段

問94 移動手段

問95 移動手段

問96 移動手段

問97 移動手段

問98 移動手段

問99 移動手段

問100 移動手段

第5回調査では、抽出された世帯に調査票を郵送し、書面及びWEB（パソコン）での回答を実施

1. パーソントリップ調査とは
2. これまでの仙台都市圏パーソントリップ調査について
3. 仙台都市圏の現状と課題及び第6回調査の目的
4. 第6回仙台都市圏パーソントリップ調査について
5. 令和8年度の検討スケジュール（案）
6. 構成員（関係機関）への依頼事項

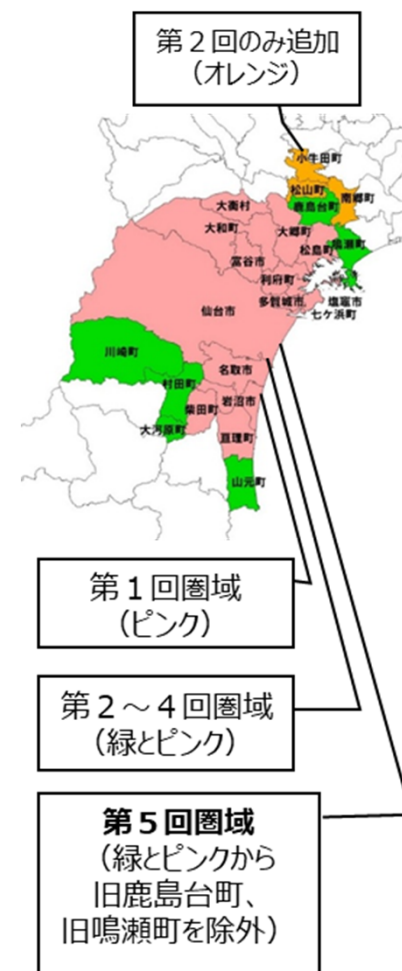
これまでの仙台都市圏パーソントリップ調査について

- ・仙台都市圏では、昭和47年の第1回調査以降、概ね10年ごとに継続し、これまでに5回のパーソントリップ調査を実施。
- ・都市圏人口が右肩上がりに増加する中、都市交通の在り方の検討等に、調査結果を活用。

※ 第5回調査は、東日本大震災の影響を考慮し10年間隔で実施していない

表 仙台都市圏パーソントリップ調査の概要

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
調査年	S47年 (1972)	S57年 (1982)	H4年 (1992)	H14年 (2002)	H29年 (2017)
対象市町村数 (平成29年時点)	14	23	20	20	18
都市圏人口 (5歳以上)	85.4 万人	118.8 万人	134.7 万人	146.9 万人	154.3 万人
調査対象者数 (有効回答)	6.4万人	9.1万人	9.3万人	9.1万人	5.1万人
総トリップ数(平日)	225万 トリップ	275万 トリップ	339万 トリップ	354万 トリップ	369万 トリップ
外出率(平日)	85%	85.4%	85.8%	84.8%	83.2%
1人あたりトリップ数 (グロス原単位※1)	2.63 トリップ/日	2.44 トリップ/日	2.57 トリップ/日	2.45 トリップ/日	2.38 トリップ/日
自動車分担率 (都市圏発集量ベース)	28%	35%	47%	54%	54%



※1：グロス原単位とは、総トリップ数を総人口（5歳以上の都市圏人口）で除した値。

※PT調査における移動の数え方：ある目的をもった、出発から目的地までの移動を「1トリップ」と数えます。
途中で交通手段が変わっても1トリップと数えます。

これまでの調査の検討テーマと成果の活用

- ・ P T 調査結果の活用により、地下鉄や仙台空港アクセス鉄道の将来需要などを考慮した交通網の形成と、交通網を骨格とした計画的な市街地の拡大等を実現してきた。

検討テーマ・提案内容

主な P T 調査成果の活用

第 1 回
(S47年)

- ・ 既定計画の土地利用を前提とした 幹線交通体系計画
- ・ 幹線道路網、都市高速鉄道（地下鉄 等）



- 地下鉄南北線の
工事業免許(S55)

第 2 回
(S57年)

- ・ 带状多核開発型都市構造（中心核、带状地域）の形成
- ・ 中心核、带状地域の道路ネットワーク、道路の段階構成



- 地下鉄南北線
泉中央延伸（H4）

第 3 回
(H4年)

- ・ 多核連携型都市圏構造を誘導する 骨格幹線交通網
- ・ 3環状 1 2放射体系の道路網、仙台市街地東西方向への鉄軌道系導入 等



- 仙台市新道路計画
- 地下鉄東西線の事業免許(H15)
- 空港アクセス鉄道（需要見通し）

第 4 回
(H14年)

- ・ 交通軸上市街地集約型都市構造の構築
- ・ 鉄道・バスを中心とした基幹交通軸形成、交通軸上への市街地集約



- 仙塩広域区域MP「線引きの方針」
- 都市計画道路網の見直し、検討
- 地下鉄東西線（事業再評価）

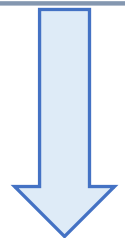
第 5 回
(H29年)

- ・ 都市・交通ストックのフル活用による交通軸を中心とした「多核連携集約型都市構造」の形成
- ・ ライフステージに応じた持続的な暮らしやすさの向上



- 仙塩広域区域MP「線引きの方針」
- 都市計画道路網の見直し、検討
- 仙台市MaaS導入検討
- 地域公共交通計画の策定
- 地下鉄東西線（事後評価）

**拡大型の
土地利用計画
を前提とした
基幹交通施設
計画**



**交通と
土地利用の
一体検討**
(拡大型から
コンパクト+ネッ
トワークのまちづ
くりへの転換)

第5回調査の概要 【平成29年度調査】

● 調査対象圏域



18市町村

仙台都市圏の
交通の特徴

都市圏住民の移動回数は、増加傾向にあります

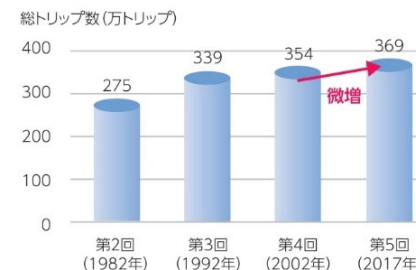


図1 都市圏総トリップ数(平日)の推移

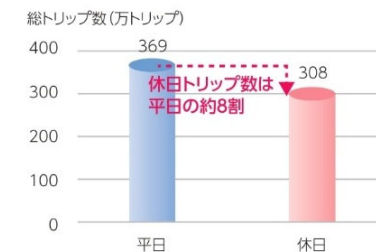


図2 都市圏総トリップ数平日・休日比較

一人あたりトリップ数は若者で低下し、高齢者で上昇しています

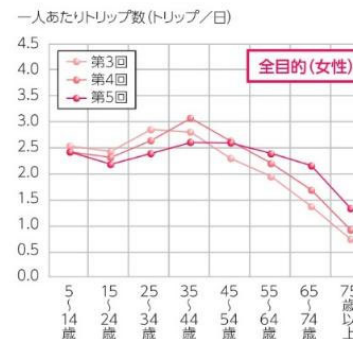
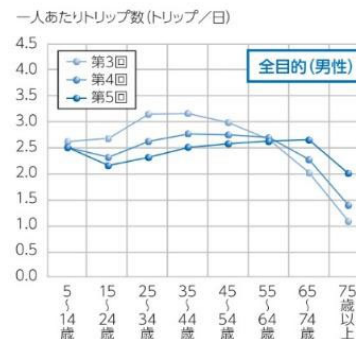


図3 年齢階層別の一人当たりのトリップ数の変化

買物・私事の割合が増加する傾向にあります

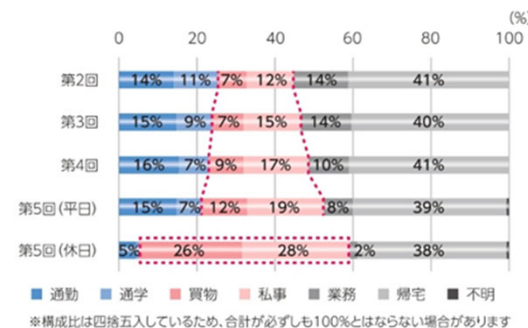


図4 トリップ目的構成の変化

● 調査の概要

交通実態調査は、ある1日の人の移動実態を把握するためのアンケート調査です。

調査方法 郵送配付、郵送回収またはWEB回答

調査期間 2017年(平成29年)10、11月(※一部地域で12月まで実施)

有効標本率 3.28%(2.4万世帯、5.1万人より回答)

● 調査のスケジュール

2017年度(平成29年度)

交通実態調査の実施

2018年度(平成30年度)

交通実態の分析、将来交通需要予測手法の検討

2019年度(平成31年度 令和元年度)

都市と交通の政策の評価、検証及び提案

※2016年度(平成28年度)に企画・準備を実施

自動車の利用割合がはじめて横ばいになりました

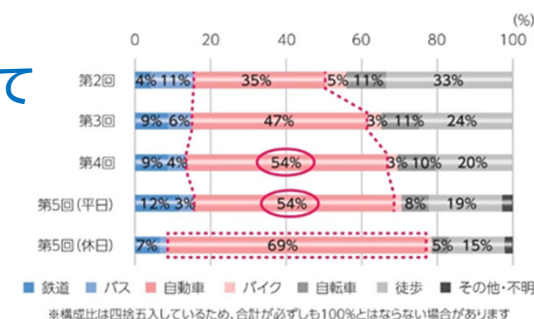


図5 トリップの代表交通手段構成の変化



誰もが暮らしやすい仙台都市圏を目指して ～持続可能な都市構造と交通体系の提案～

3つの視点による都市・交通政策の目標

目標1 都市圏における生活の視点 ～暮らしやすさの向上～	目標2 広域的な役割の視点 ～活力のけん引～	目標3 地球環境の視点 ～環境への配慮～
若者、子育て世帯、高齢者などが、それぞれのライフスタイルに応じた交通手段の選択を行い、災害に強く、健康で安心して暮らせる都市圏を目指す	東北地方の広い交流を支え、産業や経済をけん引する、活力と魅力にあふれた都市圏を目指す	エネルギー消費が少なく、地球環境にやさしい持続可能な都市圏を目指す

目標の実現に向けて

都市構造の観点から

●第4回提言

「交通軸上市街地集約型都市構造の形成」が進展

交通ネットワーク整備の進展
鉄道沿線での人口集積とトリップ集積
過去一貫して増加してきた自動車分担率がはじめて横ばい

●引き続き、土地利用政策と交通政策が連動した集約型都市構造の形成のさらなる推進が必要

ライフステージ(人の属性)の観点から

- 人口減少と少子高齢化、私事交通の増大
- ライフステージ別の移動特性の差異、ライフスタイルの多様化

外出率：若者は低下、高齢者は上昇
自動車利用：クルマを持たなくなった若者、高齢者の自動車利用が運転、同乗ともに増加、子育て世帯の休日の私事などで高い自動車分担率

● 定常的な通勤通学需要を主とした対応に加え、多様な移動ニーズを持つ私事交通への対応も必要

【政策1】 将来の望ましい都市構造の形成

都市・交通ストックのフル活用による
交通軸を中心とした

「多核連携集約型都市構造」の形成

(コンパクト+ネットワーク型都市構造の推進)

【政策2】 ライフステージ別の移動ニーズへの対応

ライフステージに応じた 持続的な暮らしやすさの向上

「若者」「子育て世帯」「高齢者」について、暮らしやすさの向上を目指す

+

① 将来の望ましい都市構造の形成に関する政策

～都市・交通ストックのフル活用による交通軸を中心とした「多核連携集約型都市構造」の形成～

都市圏全体

(まち・生活のイメージ)

鉄道や道路による基幹交通軸に都市機能の集積する地域を集約し、都市圏住民が生活に必要な諸機能を過度に自動車に頼らず享受できるとともに、産業、学術・研究、観光及び東日本大震災等の経験を踏まえた防災の活動が円滑に行える「多核連携集約型都市構造」

(取り組みの方向性)

- **【仙台都心や都市拠点を中心としたコンパクト・プラス・ネットワーク】**
都市圏住民の生活や産業の活力を支える拠点的な地域への機能集積を促進し、それら地域間の相互の連携を強化する公共交通網や道路網のネットワーク化を図る
- **【居住地選択】**
住み替えのタイミングをとらえ、都市・交通ストックが充実し生活・交通利便性が高い地域への居住誘導と、生活・交通利便性の低い地域における自立可能な世帯を対象としたゆとりを活かす住環境の形成支援
- **【シームレスな移動】**
都市圏内の各地域をつなぐ様々な交通手段の乗り換えにおけるICTの活用等によるシームレス化の促進
- **【都市圏外からのアクセス】**
都市圏外から都市圏内各地へ人やモノが円滑に移動できる環境の形成

施策例(イメージ図)



将来都市構造に位置付けた交通ネットワーク(基幹交通軸、広域交通ネットワーク)に関する政策は、主に本頁の「都市圏全体」の政策として記載

② ライフステージ別の移動ニーズに関する政策 ～ライフステージに応じた持続的な暮らしやすさの向上～

若者

(望ましい生活のイメージ)

次世代を担う若者が、徒歩や公共交通、自転車など健康的で環境にいい移動手段で生活するとともに、仙台都心や都市拠点などで活発に活動ができる生活

(取り組みの方向性)

- **【スマートな移動】**MaaS等の新たなサービスを活用した自動車以外の手段による行きたい場所への円滑な移動の促進
- **【出かけたくなるまちなか】**外出率の低下する傾向のみられる若者が出かけたくなる、にぎわいのあるまちなかの形成

施策例(イメージ図)



子育て世帯

(望ましい生活のイメージ)

子育て中の親がまちなかで子供と楽しく過ごすことができ、子育てに伴う移動の負担が小さい生活

(取り組みの方向性)

- **【子供と楽しめるまちなか】**平日、休日を問わず、バリアフリーなどに配慮された居心地が良く歩きたくなるまちなかに子供と安心して訪れ、楽しむことのできる移動環境や都市空間の形成
- **【子育ての移動の負担を軽減する施設】**P&R駐車場など、通勤や買物、子供の送迎などで多忙な子育て中の親の負担を軽減する移動環境の形成
- **【支え合いによる子育ての移動負担軽減】**近居や同居などにより家族等で移動を支え合いながら子育てできる住まい方の促進

施策例(イメージ図)



高齢者

(望ましい生活のイメージ)

高齢者が自立して移動できる安全な歩行環境や利用しやすい公共交通、家族や地域の支えなどにより、健康で安心して地域に住み続けることができる

(取り組みの方向性)

- **【安全で歩きやすい歩行環境】**日常的な買物や散歩など、様々な目的における徒歩による外出を促進する、バリアフリーに配慮された安全で歩きやすい歩行環境の形成
- **【自ら運転しなくてもよい移動環境】**公共交通サービスレベルの十分ではない地域などにおける、高齢者が自ら運転しなくてもよい移動環境の確保
- **【支え合える暮らし方】**高齢者の生活に必要な行政サービスや近居や同居などにより、家族、また、地域からの移動支援を受けやすい住環境の確保の促進

施策例(イメージ図)



1. パーソントリップ調査とは
2. これまでの仙台都市圏パーソントリップ調査について
3. 仙台都市圏の現状と課題及び第6回調査の目的
4. 第6回仙台都市圏パーソントリップ調査について
5. 令和8年度の検討スケジュール（案）
6. 構成員（関係機関）への依頼事項

都市圏の現状（都市構造）

①都市構造の観点

■都市構造

○コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりが進捗

✓平成30年をピークに都市圏の人口は減少に転換

✓鉄道1km圏に人口集積が進んでいる



✓立地適正化計画の作成が進捗

立地適正化計画の作成状況（R7.12.31時点）

作成状況	都市圏内における該当市町村
済	仙台市、富谷市、柴田町
作成中・予定	塩竈市、名取市、岩沼市、大河原町、村田町、川崎町、亘理町、山元町、松島町、利府町、大和町、大郷町
未定	多賀城市、七ヶ浜町、大衡村

出典：国土交通省都市局都市計画課HP

立地適正化計画とは…コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを進める指針となるもの。「居住を誘導する区域」「生活サービスを誘導する区域」を設定し、人口密度を維持し、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるようにすることを目的とする。

○土地利用の変化

✓都市圏北部への産業立地、従業員人口が増加

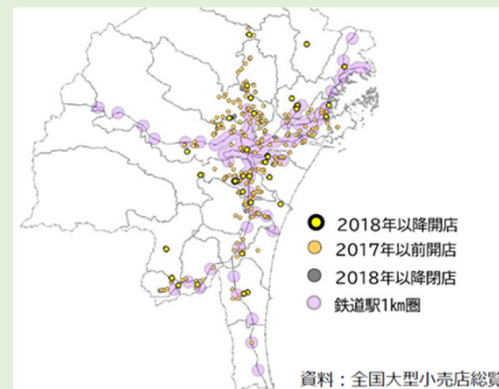
2015年を1.0とした時の2020年の従業員人口

市区町村	第1次	第2次	第3次	総計
仙台市	1.00	0.96	1.00	1.00
仙台市青葉区	1.11	0.95	0.98	0.98
仙台市宮城野区	0.98	0.95	1.02	1.01
仙台市若林区	1.02	0.94	1.03	1.01
仙台市太白区	1.00	0.98	1.03	1.02
仙台市泉区	0.92	1.01	1.00	1.00
塩竈市	0.82	0.86	0.92	0.91
名取市	0.90	0.94	1.01	0.99
多賀城市	0.89	0.96	0.95	0.96
岩沼市	0.88	0.93	0.97	0.96
富谷市	1.00	1.05	1.06	1.06
大河原町	0.94	0.98	0.98	0.98
村田町	0.73	0.77	0.96	0.86
柴田町	0.97	0.90	0.99	0.96
川崎町	0.91	0.94	0.91	0.92
亘理町	0.93	0.87	0.96	0.93
山元町	1.38	0.80	0.95	0.94
松島町	0.94	0.86	0.95	0.94
七ヶ浜町	1.08	0.82	0.94	0.91
利府町	0.97	1.03	1.00	1.01
大和町	0.92	1.22	0.99	1.08
大郷町	0.92	1.06	1.01	1.02
大衡村	0.81	1.11	1.00	1.05
都市圏計	0.97	0.96	1.00	0.99

資料：国勢調査

✓都心部の商業機能が縮小傾向

✓鉄道沿線から離れたエリアにも大型小売店が出店



■交通ネットワーク

○公共交通サービスレベルの変化

✓前回調査以降、新規鉄道路線や新駅の開業はない

✓利用状況等に応じて、鉄道運行本数が変化

仙台市営地下鉄の運行本数の変化（減便）

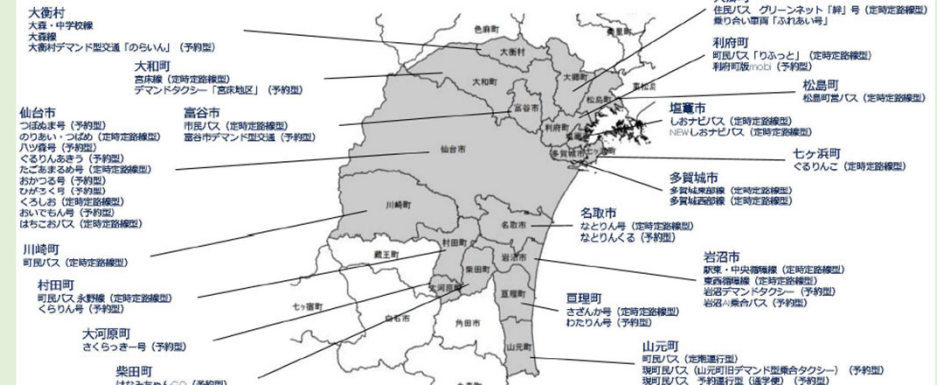
平日	運行間隔	2017		2025		土休日	運行間隔	2017		2025	
		9:30～10:30	7分30秒	8分00秒	8分00秒			7:30～10:30	7分30秒	8分00秒	8分00秒
		10:30～14:30	7分30秒	10分00秒	10分00秒			10:30～22:00	7分30秒	10分00秒	10分00秒
平日	運行本数	南北線	167本	157本	157本	土休日	運行本数	南北線	135本	113本	113本
		東西線	150本	140本	140本			東西線	135本	112本	112本

✓路線バスは、利用者の減少、運転手不足等から運行本数が減少傾向

○地域交通サービスの変化

✓前回調査以降、各市町村が生活交通確保に向けた取組を実施

▼住民バス等の運行状況



✓生活交通においても、地域の需要に応じたサービス確保の持続可能性が懸念

都市圏の現状（ライフステージ（人の属性））

②ライフステージ（人の属性）の観点

■ライフステージ

○新型コロナウイルス感染症まん延やオンライン化の進展による生活様式の変化

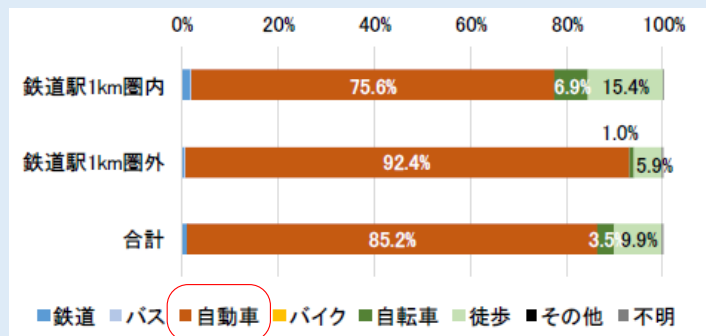
- ✓新型コロナウイルス感染症まん延やオンライン化の進展により、日常的な買い物や勤務等の形態が多様化
- ✓行動様式の変化に伴い、移動のニーズがこれまでとは変化している可能性

○少子化・超高齢化社会の進展による社会のニーズの変化

- ✓人口減少の加速、少子化・超高齢化の進展により、ライフステージ（人の属性）別の社会のニーズが変化している可能性

前回PT調査時の状況（参考）

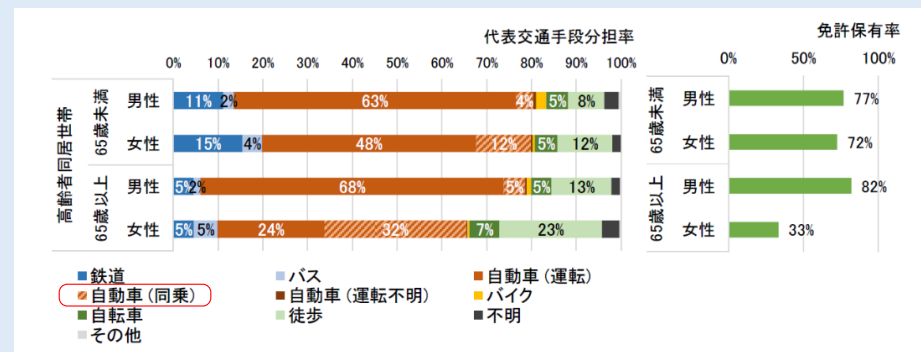
- ✓子連れ世帯は「鉄道駅1km圏内外の居住」「平日・休日」問わず、約90%が移動に自動車を利用



鉄道1km圏内外別の子連れトリップ代表交通分担率（平日）

出典：第5回仙台都市圏PT調査報告書

- ✓高齢者（65歳以上）が同居する世帯では、自動車（同乗）の割合は免許保有率の低い女性・高齢者が最も高い



高齢者（65歳以上）のいる世帯構成員の代表交通手段分担率（全目的・昼）及び免許保有率

※高齢者と非高齢者（18歳未満除く）が同居する世帯を対象

出典：第5回仙台都市圏PT調査報告書

都市圏の課題と第6回調査の実施目的

都市圏の現状

前回調査（H29実態調査）から10年が経過し、
都市圏内の『人の移動』に大きな変化が生じている

①都市構造の観点

- コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりが進捗
- 土地利用の変化
- 公共交通サービスレベルの変化
- 地域交通サービスの変化

②ライフステージ（人の属性）の観点

- 新型コロナウイルス感染症まん延やオンライン化の進展による生活様式の変化
- 少子化・超高齢化社会の進展による社会のニーズの変化

都市圏の課題

- 土地利用施策と交通施策が連動した都市構造の形成に向けた取組みの継続

- 地域の持続的な暮らしを支える柔軟な公共交通ネットワークの確立と、移動環境の維持・確保

第6回調査の実施目的

✓「変化」や「課題」を見据え、現状の交通行動の把握が必要

✓望ましい都市・交通の実現に向けた政策の提案

- 第5回調査提案の取組のさらなる推進・深化
 - ・「多核連携集約型都市構造」の形成
 - ・ライフステージに応じた持続的な暮らしやすさの向上
- 交通行動の『変化』に対応した新たな取組の検討
 - ・「誰もが安心していきいきと暮らせる地域社会づくり」など

1. パーソントリップ調査とは
2. これまでの仙台都市圏パーソントリップ調査について
3. 仙台都市圏の現状と課題及び第6回調査の目的
4. 第6回仙台都市圏パーソントリップ調査について
5. 令和8年度の検討スケジュール（案）
6. 構成員（関係機関）への依頼事項

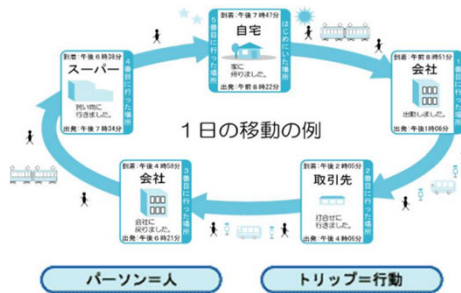
調査の流れ【第6回調査】

1年目
(令和8年度)
企画・準備

実施計画の企画
調査票等の設計

2年目
(令和9年度)
実態調査

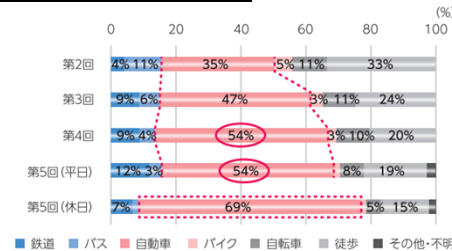
平日・休日各1日の
移動情報を調査票に
より収集



Who	どのような人が
Why	どのような目的で
Where	どこからどこへ
When	どのような時間帯に
How	どのような交通手段を利用しているか

3年目
(令和10年度)
実態把握・分析

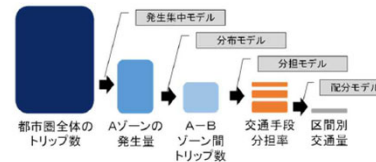
交通分担率や地域間移動量等を集計
交通実態を定量的に把握・分析
⇒中間とりまとめ



将来交通需要推計に向けた交通行動
モデル等の構築

四段階推定法

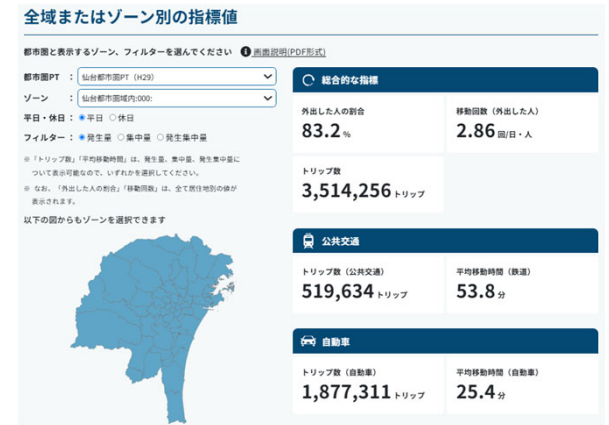
○集計したトリップ数や交通量を直接的
に推計する手法



4年目
(令和11年度)
将来予測・とりまとめ

将来交通需要や土地利用計画を検討
総合的な都市交通計画を提案

調査結果の公表
オープンデータ化

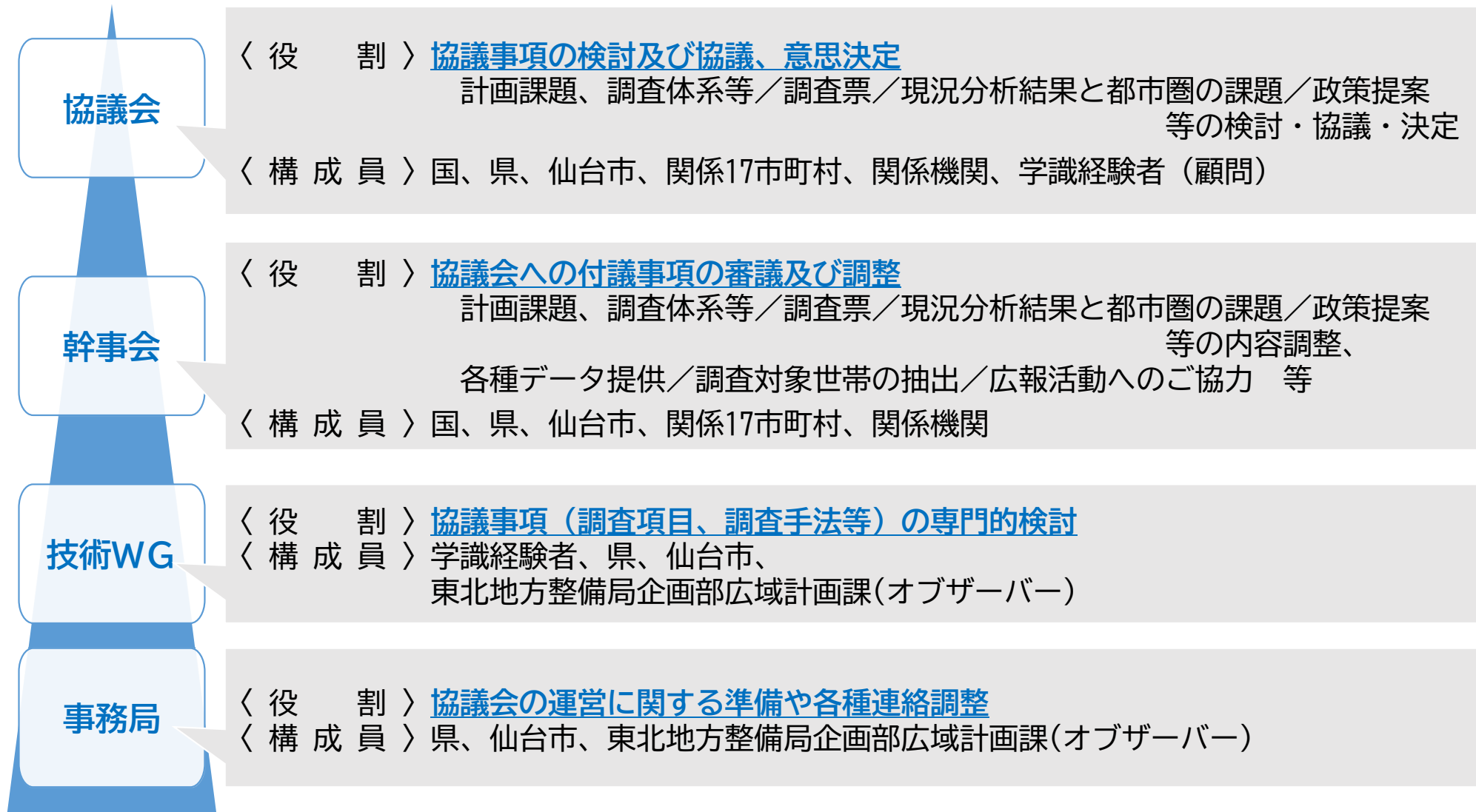


調査結果の活用 (案)【第6回調査】

PT調査の活用(都市計画分野)	
都市計画	➢ ACCの活用 - 仙塩広域都市計画区域マスタープラン「線引きの方針」の見直し ➢ 現況分析、将来交通需要の活用 - 市町村総合計画の見直しの基礎資料 - 市町村都市計画マスタープランの見直しの基礎資料 - 都市計画道路網の見直し基礎資料 - 立地適正化計画の作成・見直しの基礎資料 - 地域公共交通計画等、交通分野の検討資料
	など

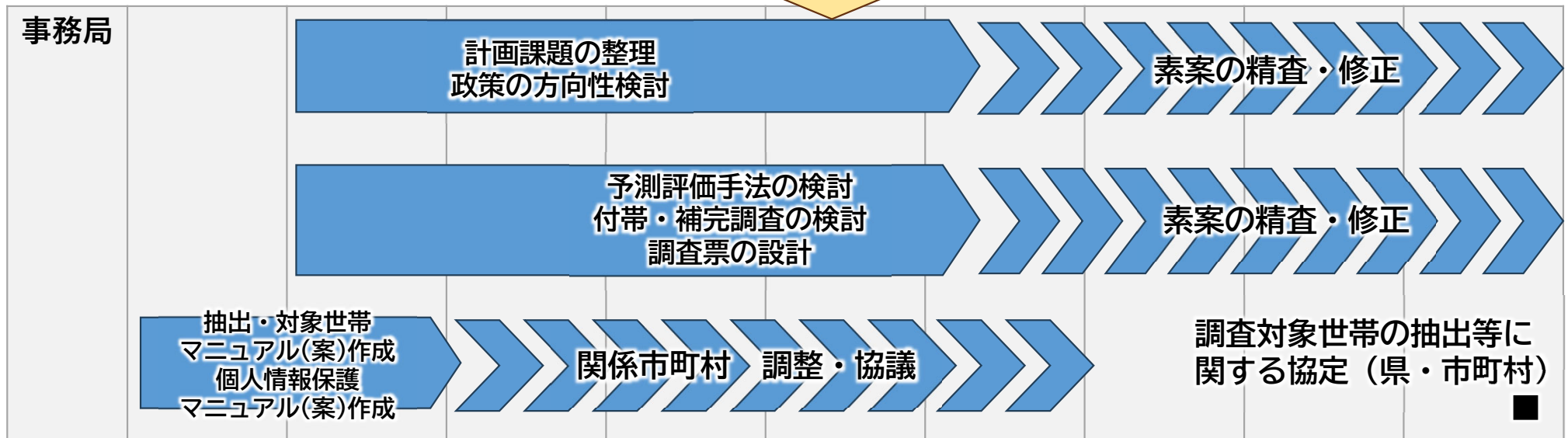
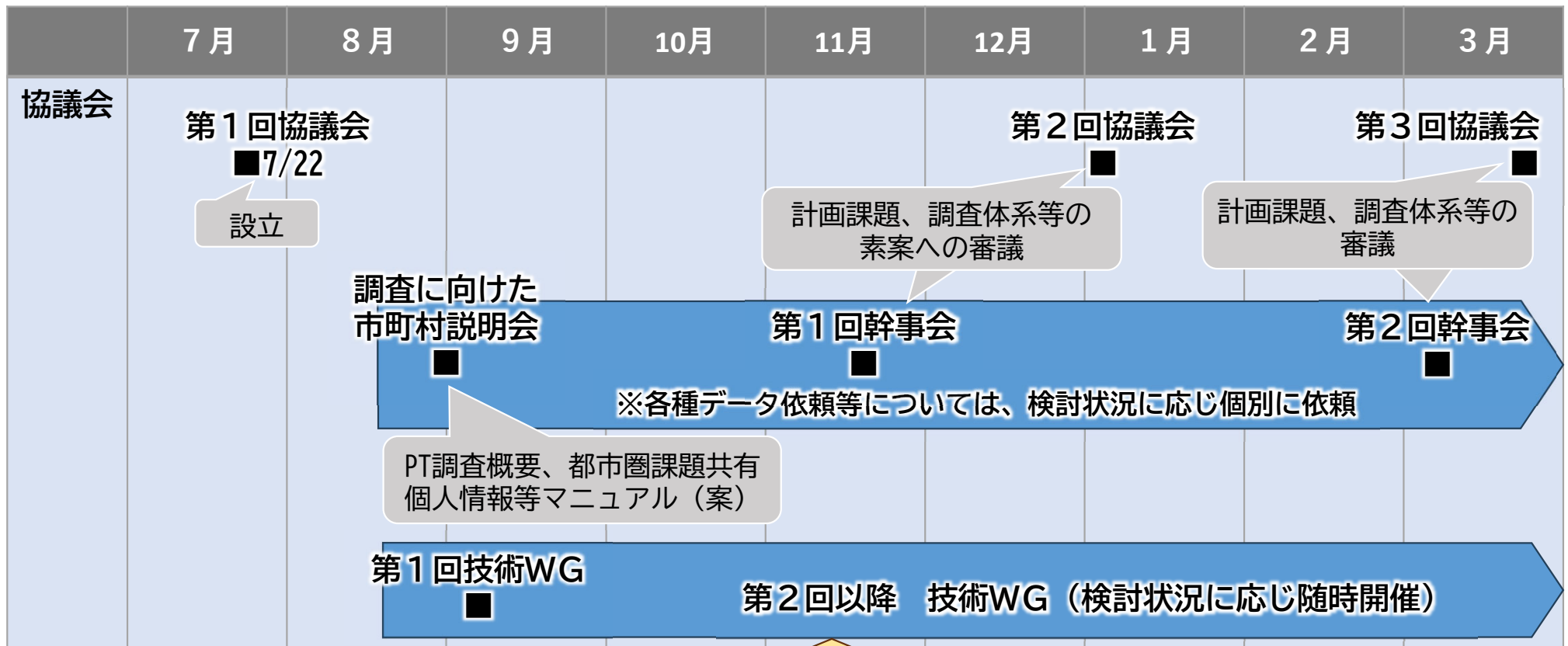
PT調査の活用可能性(他分野)	
経済	➢ ビッグデータでは分析できない交通行動の把握に期待 - 企業誘致やUIターン推進(新たな産業用地の比較検討、転入者の居住地選択特性を踏まえた転入促進策の検討など) - 商店街の持続的発展(商業施設の利用圏域の分析など)
環境	➢ 運輸部門の温室効果ガス排出削減(地域別・移動目的別・時間帯ごとの自動車利用状況を踏まえた削減ターゲットの検討など)

■ 仙台都市圏総合都市交通協議会



1. パーソントリップ調査とは
2. これまでの仙台都市圏パーソントリップ調査について
3. 仙台都市圏の現状と課題及び第6回調査の目的
4. 第6回仙台都市圏パーソントリップ調査について
5. 令和8年度の検討スケジュール（案）
6. 構成員（関係機関）への依頼事項

令和8年度の検討スケジュール（案）



1. パーソントリップ調査とは
2. これまでの仙台都市圏パーソントリップ調査について
3. 仙台都市圏の現状と課題及び第6回調査の目的
4. 第6回仙台都市圏パーソントリップ調査について
5. 令和8年度の検討スケジュール（案）
6. 構成員（関係機関）への依頼事項

構成員（関係機関）への依頼事項

- 1 各種データ提供（交通モデルの検証等に利用）
 - ・ 鉄道、バス、地域交通等の運行系統、時刻表、運賃等のデータ提供をお願いします。
- 2 調査対象世帯の抽出【市町村の皆様】（調査票の発送のために利用）
 - ・ 住民基本台帳から調査対象世帯の抽出をお願いします。
（抽出方法や個人情報保護に関する対応等の詳細は、8月下旬予定の「調査に向けた市町村説明会」でご説明します）
- 3 広報活動へのご協力
 - ・ パーソントリップ調査の精度向上には、回答率の確保が欠かせないため、様々な手段を用いた広報活動へのご協力をお願いします。
（前回の実績：チラシ・ポスターの掲示、市町村広報誌、回覧版、ラジオなど）
- 4 意見聴取等へのご協力
 - ・ 計画課題の把握・整理や、効果的な政策提案の検討等に向け、アンケートやヒアリング等を通じて、構成員の皆様のご意見を随時伺いますので、ご協力をお願いします。

調査・検討の進捗に応じ、事務局から幹事会構成員を通じて
随時ご依頼いたします。